

『看護教育』 バックナンバーのご案内

(1部) 定価：本体 1,500 円＋税
年間購読 好評受付中！
電子版もお選びいただけます。

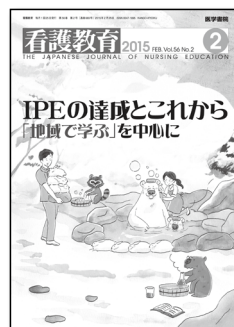
Vol.56 No.2

2015 年 2 月
特集

IPE の達成とこれから 「地域で学ぶ」を中心に

専門職間のチーム医療の重要性が主張されて二十年近くが経過している。教育機関においては、00 年代中頃より IPE が始動してきた。2006 年には、日本保健医療福祉連携教育学会が設立、2009 年には、チーム医療推進協議会が発足している。IPE は胎動期を終え、ちょうど発展期がきているといえるだろう。他学部と一緒に授業を受けてみる、見学する、という単発的な取り組みだけで満足することなく、先駆的な大学は学生入学時から卒業まで他学部合同でカリキュラムを編成するなど、発展的な取り組みがなされている。特に今特集では、IPE の特色といえるだろう、地域基盤型の実習の紹介を中心に、IPE が達成してきたこと、そしてこれからの課題を考える。

- 専門職連携コンピテンシーの確立——千葉大学亥鼻 IPE の展開から……酒井郁子他
- 地域基盤型の IPE の展開——大学横断型の取り組みのなかで……朝日雅也
- 滞在実習で育む地域医療マインド……横山まどか／相馬仁
- SIPEC(群馬大学の学生組織)の活動と学生たちの声
SIPEC の 5 つの活動……時田佳治他
学生の声(WHO に訪問して) 西村明日美
学生の声(SIPEC の活動に参加して)……小川将太
- 患者教育を実践する専門職連携協働のための連携教育——英国における地域医療の現場から……大嶋伸雄



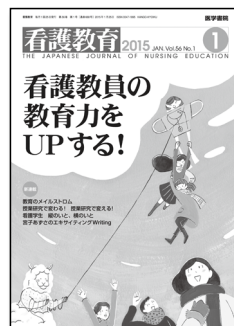
Vol.56 No.1

2015 年 1 月
特集

看護教員の教育力を UP する！

中央教育審議会答申において大学教員の教育力向上が謳われて以来、大学におけるファカルティ・ディベロップメント(FD)を巡る動きが活発になってきました。当然看護系大学も改めて「教育」に力を注ぎ始めています。ただ、それ自体は歓迎すべきことですが、内容に関して言えば、まだまだ手さぐり状態が続いていると見えます。翻って、看護専門学校においては、専任教員養成講習会で「教育」を学ぶ機会はありませんが、残念ながらその内容は、現在進行形の「教育」に追いついていないのが現状です。そこで弊誌では、読者であるすべての看護教員の教育力を UP させることを目標に掲げて編集計画を立てようと考えました。本特集では、教育力 UP のためにこれまでやられてきたことを振り返り、それをふまえて今後どのような工夫や試みが必要なのかを提議したいと思います。看護師はそもそも教育力を期待される集団のはず。看護教員であればなおさらです。ぜひとも前例主義から脱皮して、新たな試みに向け一歩を踏み出していただきたいと思います。

- 【対談】看護教員が教育力 UP のためにできること……近藤麻理／佐藤浩章
- 看護教員が教育力 UP のためにやってきたこと、やっていくこと……村中陽子
- これからの専任教員養成講習会で教育力を UP するための工夫……杉原多可子
- 「教員」になるために必要な教育力と教員力……新保幸洋
- 改めて学ぶアクティブ・ラーニング……三浦真琴



[2014 年 12 月号 (Vol.55 No.12)]

理想的な「入学前学習」を
求めて

[2014 年 9 月号 (Vol.55 No.9)]

求める学生確保のための方策
面接をめぐる課題を中心に

[2014 年 11 月号 (Vol.55 No.11)]

基礎と臨床がともに学ぶ場を
つくる

自治体が協力するケースを中心に

[2014 年 8 月号 (Vol.55 No.8)]

学習の「質」を高める
パフォーマンス評価

[2014 年 10 月号 (Vol.55 No.10)]

論文執筆のススメ
実例から学ぶ良い論文の書き方

[2014 年 7 月号 (Vol.55 No.7)]

精神看護教育に
改めて向き合う

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2013 年 1 月号 (Vol. 54, No. 1) 以前の号は、東亜ブック(TEL.03-3985-4701, FAX 03-3985-4703, http://www.toa-book.com/) にお問い合わせください。
- 2013 年 2 月号 (Vol. 54, No. 2) 以降の号は、医学書院販売部(TEL.03-3817-5659)にお問い合わせください。